

未来開墾！食文化創造都市ニイガタ ー米どころ新潟でなぜ小麦？ー

高学年3組虹の輪 6・7・8月 20時間 附属新潟小学校 教諭 梅津 祐介

1 本単元で目指す姿

新潟産小麦ゆきちからが消費者に選ばれるための道筋を探り、自分たちの行動の社会的価値を考える子ども

具体的には、ゆきちからの特徴やゆきちからにかかわる人の思いに着目し、自己の在り方と関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせ、アンケート結果を多面的・多角的に解釈する力などの資質・能力を発揮して、「人の思いに触れたとき、消費者は選んでくれる。私たちは、ゆきちからにかかわる人の思いや努力を伝えた。そのことで、ゆきちからに関心をもってくれる人が増えたと思う」などと考える姿。

2 本単元で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

「見方・考え方」			
○ゆきちからの特徴、ゆきちからにかかわる人の思いに着目し、自己の在り方と関連付けて考える「見方・考え方」			
虹の輪	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○ゆきちからに関する知識	○消費者に関する情報を適切に収集する力 ○アンケート結果を多面的・多角的に解釈する力 ○アンケート結果を基に自分の考えを明確にする力	○ゆきちからの認知拡大に向けて、主体的に取り組もうとする態度 ○ゆきちからの認知拡大に向けて、新潟市民に働き掛けようとする態度	

「見方・考え方」			
○食に関する消費者のニーズに着目し、国民の生活と関連付けて考える「見方・考え方」			
社会科	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○食の安全性と国民生活に関する知識			

3 単元の計画

次	時	○学習活動	◆働き掛け	★資質・能力 ・予想される子どもの反応	評価する対象 ◎評価
虹の輪 一次	1 ・ 2	○新潟市に対するイメージを考える。 ○新潟市の農業の課題をつかむ。	◆新潟市はどのようなまちだと思うか問う。 ◆新潟市の米市場に関する新聞記事を提示する。	★総合①② ①②新潟市の農業の中心はやっぱり米。でも、米だけで新潟の農業を支えることは難しくなっている。他の作物の栽培にも努力が必要である。	ワークシート記述 ①②新潟市の農業の現状を把握している
	3 ・ 4 ・ 5	○ゆきちからにかかわる人の話を聞く。 ○ゆきちからの収穫体験をする。	◆製粉会社の佐藤さん、レストランオーナーシェフ真保さんの話を聞く場やゆきちからを使った料理（パンやパスタ）を試食する場を設定する。 ◆ゆきちからの収穫体験をする場を設定する。	★総合①③ ①小麦は90%輸入に頼っている。 ①佐藤さんも真保さんもゆきちからのことをみんなに知ってほしいと思っている。 ③私たちがゆきちからのことをみんなに知らせたい。	ワークシート記述 ①③新潟市には美味しいゆきちからがある。このことをもっと知ってほしい。
	6 ・ 7	○これまでの学習についてまとめる。	◆ウェビング・マップを使って、これまで学習したことをまとめるよう指示する。	ツール活用能力 ・自分で調べたことも追加してまとめよう。 ・小麦の生産にかかわること、成分や用途などについてまとめよう。	
	8 ・ 9	○自分たちと新潟市民の感覚の違いを考える。	◆ゆきちからに対する思いとその理由を問う。【働き掛け1-①】 ◆なぜゆきちからを選ぶのか問う。【働き掛け1-②】	【学習課題】 新潟市民にゆきちからを選んでほしい。そのために必要なことは何か。	
虹の輪 二次	10 ・ 11 ・ 12 ・ 13	○課題解決に向けた手順を考える。 ○街頭アンケートの内容を考え、実行する。	◆課題を解決するまでの手順を考える場を設定する。【働き掛け2-①】 ◆新潟市民からどのような情報が欲しいのか問う。【働き掛け2-②】	★総合②③、社会①、ツール活用能力 ・まずは、新潟市のみなさんが食材を選ぶときの理由を知る必要がある。街頭アンケートをして、その結果を分析する。そうすれば伝える内容ははっきりする。 ②③、社①アンケートの内容はゆきちからの認知状況が分かるものがよい。また、外国産、国内産、新潟産の小麦をどのような理由で選ぶのか知りたい。	発話、ワークシート記述 ②③、社①アンケートの内容を考え、次の活動への意欲をもつ。
	14	○街頭アンケートの結果を分析し、一応の学習課題の解決を図る。	◆街頭アンケートの結果を提示し、結果についてどう思うか問う。【働き掛け3-①】 ◆街頭アンケートの自由記述の結果を提示し、学習課題の解決に役立つか問う。【働き掛け3-②】 ◆新潟市民がどうしたらゆきちからを選んでもくれるか問う。【働き掛け3-③】	★総合②③、協働性 ・街頭アンケートの結果で、ゆきちからを選ぶ人は、安全性や美味しさよりも地元を応援する気持ちが強い。 ゆきちからを選んでもくれる人は、地元のものや地元の人を応援したいという気持ちが強いことが分かった。だから、ゆきちからを選んでもらうためには、ゆきちからをつくらせている農家さんや使っている料理人さんの思いや努力を伝えることが必要だと思う。新潟日報のサマーセッションでは、いろいろな人の思いや努力を伝えることで、ゆきちからを選ぶ人が増えてほしい（Gm）。	発話、ワークシート記述
	15 ・ 16 ・ 17 ・ 18	○新潟日報みらい大学のサマーセッションで発表する内容を検討する。 ○サマーセッションで発表するとともに、これまでの学習を振り返る。	◆新潟日報サマーセッションで発表する内容について問う。【働き掛け4-①】 ◆「新潟の食とゆきちから」というテーマで発表する場を設定し、ゆきちからを取り巻く状況に変化があったと思うか問う。【働き掛け4-②】	★総合①②③、ツール活用能力 ・サマーセッションでは、街頭アンケートの結果を一番に伝えたい。 ・私たちがやってきたことにはどんな価値があったのか。 消費者は、味や安全性だけではなく、地元や人を思う気持ちで食材を選ぶことが分かった。サマーセッションでは、発表を聞いてくれた人から「ゆきちからを使った料理を食べてみたい」「ゆきちからのことを知ることができてよかった」などのよい反応を得ることができた。必要なことは、農家さんなどのゆきちからにかかわる人の思いを伝えること。それを私たちが実践したことによって、ゆきちからに関心をもってくれる人が増えたと思う（Gn）。	発話、ワークシート記述
	19 ・ 20	○作文を書くことによって、発揮した資質・能力を自覚する。	◆「ゆきちからと私」というテーマで学習作文を書く場を設定する。【働き掛け5】	★総合①②③ ①②③私たちは、ゆきちからのパスタを食べることによってアルモニアの真保さんの思いを知った。ゆきちからのパンを食べたり、ゆきちからを収穫したりすることを通して、丸栄製粉の佐藤さんの思いも知った。街頭アンケートをして、消費者が地元のものや地元の人を応援したいと思っていることを知った。食べることを通じて人の思いを感じた。思いが伝われば、人はゆきちからを選んでくれると思う。新潟市の人やゆきちからを食べるといふ習慣がつけられるといい。そのための取組をこれからも考えていきたい。	学習作文

